

ハイライトよねやま 63

(財)ロータリー米山記念奨学会
2005年5月12日発行

1. 寄付金速報 ~ 普通寄付金のお願い

4月までの寄付金は、前年同期と比べ3.1%減、約4千万円の減少でした。普通寄付金が1.4%減、特別寄付金が3.9%減です。4月末時点で、普通寄付金の未納クラブが50数クラブあります。前年同期と比べると、今年度は早めにご納入いただいておりますが、2004-05年度も残り2カ月を切りましたので、ご送金されていないクラブに対しては、地区役員の皆さまからもバックアップくださいますよう、よろしく願い申し上げます。

2. 米山記念奨学会「助成額は全体で3位、民間主導型財団では1位」に

(財)助成財団センター(東京都・新宿区)が4月に発表した「年間助成額上位100財団(2003年度)」によると、ロータリー米山記念奨学会は年間助成額17億円余りで、全体で3位(去年は4位)、民間主導型財団としては首位をキープしています。ご興味のある方は、下記のホームページからご覧ください。

【資料提供:(財)助成財団センター <http://www.jfc.or.jp/>】

助成等事業費上位100財団リスト: http://www.jfc.or.jp/bunseki/rank_grant.html

3. 『2005学年度 米山カウンセラー・ハンドブック』発行!

『奨学生ハンドブック』につづき、カウンセラー必携の『カウンセラー・ハンドブック』ができあがりました。今回は、奨学生の個人情報を取り扱う際の注意事項や、カウンセラー同士の情報交換ツールとして評価の高い「カウンセラーメーリングリスト」の紹介などが新しく盛り込まれています。

新規カウンセラーのみならず、前年に引き続きご担当いただくカウンセラーの方にもぜひ目を通していただきたい内容となっています。

カウンセラーの皆さまには、クラブ経由でお受け取りいただけるよう、4月下旬にクラブ宛にお送りしています。



4. 第2780地区米山学友会・国際ロータリー第2780地区共催

シンポジウム「新しい地域社会への提言 国際共生への道」のお知らせ

日時: 2005年6月5日(日) 13:30 開会

場所: 藤沢市民会館 小ホール

後援: 外務省・神奈川県・神奈川県教育委員会・藤沢市・藤沢市教育委員会

第2780地区米山学友会が国際ロータリー第2780地区(神奈川県)との共催で、公開シンポジウムを開催します。(詳細は、<http://www.rid2780.gr.jp/symposium.html>参照)

TVコメンテーターとしても著名な諸星^{もろほし}裕^{ゆたか}氏の基調講演『新しい地域社会への理解』、かながわ湘南RC会長の高木直之氏がコーディネーターを務め、米山学友と地域の中学校の教師・父兄がパネリストとして参加するパネルディスカッション『どうする? 異文化間コミュニケーション』など、興味深い内容が満載です。ご興味のある方は、ぜひご参加ください。お問い合わせは、国際ロータリー第2780地区ガバナー事務所(TEL: 0466-25-8855)まで。

5. 中国人留学生から見た反日運動 ～新規奨学生の声から～

4月上旬から中国各地に飛び火した反日デモ。16日には日本と最も密接な関係にある国際都市、上海で1万人規模のデモが起きました。その上海から日本に来て5年目、今年、第2590地区（神奈川県横浜市・川崎市）で採用された米山奨学生の湯伊心^{ユウイシン}さんは、テレビで故郷の姿を目の当たりにし、にわかには信じがたいほどの衝撃を受けました。混乱した頭を整理しながら、「自分の考えを誰かに伝えたい」という気持ちで投稿した彼女の声は、4月20日付の朝日新聞『声』欄に掲載されました。以下は、湯さんが投稿文に加筆をして、寄稿してくれたものです。

反日デモについて

上海で生まれ育った私は、来日前から日本の製品やドラマに憧れていました。私だけではなく、叔父や祖母も含め「日本人が造った品物は信用できる」ということは常識でした。

5年前日本に来て、中国では知ることのできなかつた、日本社会のもう一つの側面に触れました。戦後、民主主義・平和主義を貫いた日本。軍国主義や戦争の歴史を反省してきた多くの日本人の姿。また、首相の靖国神社参拝への訴訟運動などは、私に衝撃を与えました。私は、モノから日本人の多様な考え方へと関心を向け始めました。

4月16日に上海で起きた反日デモには驚きました。実利的・理性的といわれる上海の人々が、なぜあんなに感情的な行動をとったのか……。繰り返される靖国神社参拝が人々の怒りを買ったのは明らかです。でも、「日本国民の大半が、小泉首相と同様な考え方をしている」と中国で受け止められているのではないのでしょうか。言論の自由も、知る権利も、中国は日本より制限されています。一面的な見方が日中関係を損ないかねません。

今回の反日デモには深く考えさせられました。これから米山奨学生の一員として、多様な日本社会を学び、すばらしい日本の一面をより多くの中国人に伝えていきたいと思います。

2005 学年度米山奨学生 湯 伊心（第2590地区）

6. 現地募集採用型奨学金調査報告（ベトナム編） ～活躍する米山学友との連携～

2006年度制度改編案の1つ、「現地募集採用型奨学金」の調査のため、4月上旬、ベトナム・ホーチミン市を訪問しました。国立ホーチミン工業大学（元サイゴン工科大学）とサイゴンハイテクパーク（SHTP）を訪ねて、関係者と現地採用奨学金の可能性や課題について話し合いました。SHTPは、ベトナムが国家プロジェクトとして進めるサイゴン・シリコンバレー構想の中核組織です。



国立ホーチミン工業大学での懇談

驚いたことに、このSHTPの中心的役割を果たす人物の中に、ロータリー米山奨学金を受けた学友が2人いました。1人はダン・ルオン・モー博士（69歳）。東京大学で工学博士号を取得し、東芝総合研究所主任研究員、法政大学教授を経て、ベトナム国立工科大学学長を務め、現在は大学やSHTPの相談役をしています。もう1人は、キー・チャン・グエン博士（52歳）で、東京工業大学で学位を取得して米国コダック社に就職し、現在はサイゴン・シリコンバレー担当役員として大活躍しています。

彼らと、現地募集採用型奨学金の課題である、“優秀な学生”の選考と、“留学後の貢献”について議論する中で、現地学友会の必要性とその役割の重要性が論じられました。それを受けて、現在、彼らが中心となって、ベトナムに米山学友会を作ろうという動きが始まっています。

40年前に播かれた種が発芽し、今それに水を注ぎ、やがて人々の喜びと希望を宿す大木となる……夢と元気が与えられたホーチミン市訪問でした。（常務理事・事務局長 宮崎幸雄）

（財）ロータリー米山記念奨学会 編集担当：峯・野津・大庭
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館ビル8階
Tel：03-3434-8681 Fax：03-3578-8281
E-mail：highlight@rotary-yoneyama.or.jp
URL：http://www.rotary-yoneyama.or.jp/